

東京歯科大学市川総合病院神経内科

病院概要

当院は信濃町キャンパスから電車とバスを利用して所要時間約 40 分です。市川市の人口は約 50 万人で東京 23 区と同様の人口構成です。市川市の歴史は古く、律令制のもとで下総の国府と定められました。明治時代に入ってから軍需で経済的に栄え、町には今でも往時をしのばせる豪壮な邸宅が残存しています。医療機関と学校が多いことも特徴で、閑静さと利便性を兼ね備えた地域といえます。当院は 1946 年に開設され、現在は 27 の標榜診療科を有する地域の中核病院として地域医療に貢献しています。1 日約 1200 名の外来患者さんを受け入れています。慶應義塾大学医学部出身者が多く、質の高い医療を提供しています。

神経内科の特徴

神経内科は内科の 1 つの部門という位置づけです。常勤スタッフ 4 名ですが、神経内科専門医を有する内科所属の先生 1 名と非常勤医師 1 名も外来と検査を担当しています。MRI を始めとした画像検査、神経伝導検査/針筋電図、脳波などが行えます。神経内科疾患を全般的に受け入れています。脳卒中、Parkinson 病、慢性頭痛、めまいの患者さんが特に目立ちます。片頭痛に対しては CGRP 関連抗体薬を用いた治療を進めており、地域の片頭痛診療の中核的拠点として機能しています。また、スタッフに神経免疫疾患のエキスパートがいることと膠原病内科専門医もいるため、神経免疫疾患の診療機会も多いです。最近では MS、MG、CIDP といった比較的に慢性神経免疫疾患だけでなく、NMDA 受容体抗体脳炎や自己免疫性小脳失調症も経験しています。当院は脳神経外科の先生と共同で日本脳卒中学会認定一次脳卒中センターを運営しています。年間 400 名以上の脳卒中症例を経験し、rt-PA 静注のみならず適応がある場合には脳神経外科の先生が躊躇なく血管内治療を行います。このように、当科では主要な神経疾患の幅広い研修を受けることが可能です。カンファレンスの機会が多く、脳神経外科の先生や神経放射線専門医と活発な意見交換を行っています。また、看護スタッフ、リハビリスタッフ、MSW が一堂に会するカンファレンスも週 1 回実施しており、患者さんのケア、ADL 評価、退院後の治療方針などについて総合的な話し合います。当院は大学病院ということもあり、図書室も充実していますので文献検索も行いやすく、勉強する環境も整っています。診療スタイルとしては、オーソドックスな神経内科診療を心がけており、神経機能解剖に基づいた部位診断と病態生理の理解に立脚した治療方針決定のプロセスを重視しています。日本神経学会を始めとした学会での発表を積極的にも進めております。是非当科での研修を考えて頂ければと思います。

スタッフ

教授 (部長)	柴田 護 (神経内科一般・慢性頭痛・Parkinson 病)	
准教授	岡田 聡 (神経内科一般・神経免疫疾患)	
	小泉健三 (神経内科一般・脳血管障害)	
助教	南 和志 (神経内科一般・脳血管障害)	2022.4 現在